

## 現代型環境変化と地域における生活文化の変容に関する研究\*

### その 3. 岩手県農村地域における食に関する生活文化、産業の変化

#### The Modern Environmental Changes and the Life and Culture Transformation in Northern Tohoku Region, Japan

#### Part 3. Changes in Life, Culture and Industry for Food and Nutrition in Rural Areas in Iwate Prefecture

川崎雅志<sup>\*1</sup>, 千葉俊之<sup>\*1</sup>, 大里怜子<sup>\*1</sup>, 佐々木隆<sup>\*2</sup>, 原英子<sup>\*3</sup>, 本間義規<sup>\*2</sup>

Masashi KAWASAKI, Toshiyuki CHIBA, Reiko OSATO,  
Takashi SASAKI, Eiko Hara KUSABA and Yoshinori HONMA

Changes in life, culture and industry for food and nutrition in rural areas in Iwate prefecture were investigated by comparing with those about 50 years ago. This study was conducted in four typical rural areas running agriculture, forestry and fisheries. On the transformation of the life and culture for food and nutrition, we surveyed the source or market of the daily food, changes in the utilization of ten kinds of the items and appliances related to the eating habits (electric refrigerator, microwave oven, gas ring, IH heater, electric rice cooker, tableware dryer, tableware washing machine, hearth, furnace and well), and in the production of four kinds of the processed foods (miso, soy sauce, rice cake and pickle) and rice. Among the social changes that were investigated on the transformation of the industry for food and nutrition include worker of the agriculture, forestry and fisheries, places to ship and transport the farm and marine products, changes in use of the machines for the agriculture, forestry and fisheries, and in breeding of eight kinds of the domestic animals, utilization of the internet at work, and the continuity of the agriculture, forestry and fisheries. In some investigation contents, there have been changes for a period of about 50 years in the present survey, and these changes might be brought by the declining birthrate and aging of population and by the depopulation of the area which are the representative social changes in Japan.

*Keywords: Environmental Change, Food and Nutrition, Industry, Life and Culture, Questionnaire*

環境変容, 食, 産業, 生活文化, アンケート調査

#### 1. はじめに

わが国における近年の社会的な変化は、農村部においても都市部同様に著しいものがある。食（食品や栄養）をとりまく状況においても例外ではなく、栄養状態をはじめとする食環境の大幅な改善がみられた一方で、欠食にみられる不規則な食事や栄養の偏り等が問題となっている。このような状況に加えて、産業の面においては、農林水産業を柱とする第1次産業への従事人口が減少してきており、後継不足が大きな課題となっている。

そのような状況の中で、本研究では、岩手県における食に関する生活文化ならびに産業の状況の経年変化を調査した。本学部の前身である岩手県立盛岡短期大学において、およそ50年前の昭和30年代に岩手県内において生活調査<sup>2,5)</sup>を実施しているが、多くの調査項目において、当時から現在までの間におけるこうした食をとりまく環境の変化の状況を追跡した。本報では、

その調査結果を概要としてまとめた。

#### 2. 調査の概要

本調査は、平成20年から21年にかけてアンケート方式で実施した。調査地域は、八幡平市（旧岩手郡西根村）田頭中村地区<sup>2)</sup>（西根地区）、盛岡市玉山区（旧岩手郡玉山村）下田舟田地区<sup>3)</sup>（洪民地区）、宮古市（旧下閉伊郡川井村）小国地区<sup>4)</sup>（川井地区）および久慈市宇部町小袖地区<sup>5)</sup>（久慈地区）であるが、これらの地域は、昭和34年から36年にかけて岩手県立盛岡短期大学生生活科学研究部によって実施された生活調査の対象地域である。

調査項目として、食生活および食文化の状況に関する調査として、食品購入手段、食に関する物品（電気冷蔵庫、電子レンジ、ガスコンロ、電気炊飯器、食器乾燥機、食器洗浄機、IHヒーター、いろり、かまど、井戸）の使用状況、加工食品（みそ、しょうゆ、餅、

\* 本報は、2010年9月にフィリピンレガスピシティにおいて開催された、“The 4th Asian Rural Sociology Association International Conference”において発表した内容<sup>1)</sup>を改変してまとめたものである。

\*1 生活科学科食物栄養学専攻 \*2 生活科学科生活科学専攻 \*3 国際文化学科

漬物)の製造状況ならびに稲作の状況をアンケートした。また、食産業の状況に関する調査として、農林水産業への従事者、農林水産物の出荷場所、農林水産業に関わる機器(作業用トラック、田植え機、稲刈り機、トラクター、リヤカー、オート三輪、チェーンソー、船)の使用状況、家畜(肉牛、乳牛、豚、鶏、食用馬、農耕馬、山羊、羊)の飼育状況、インターネットの農林水産業への利用状況、農林水産業の継続について、アンケートを実施した。

なお、アンケート調査の実施にあたっては、対象者に文書で研究の趣旨を説明し、調査の結果は統計的に処理したものを研究目的にのみ利用し、個人が特定されるような回答結果を利用したり、公表したりすることはないことを文書で明記した上で、協力を依頼した。

有効回答率(有効回答数/調査対象数)は、西根地区66.4%(73/110)、渋民地区54.2%(231/426)、川井地区45.4%(103/227)、久慈地区83.0%(156/188)である。

### 3. 結果および考察

#### 3.1 食生活および食文化の状況に関する調査

##### 3.1.1 食品購入手段

日常における食品の購入手段の調査結果を図1に示

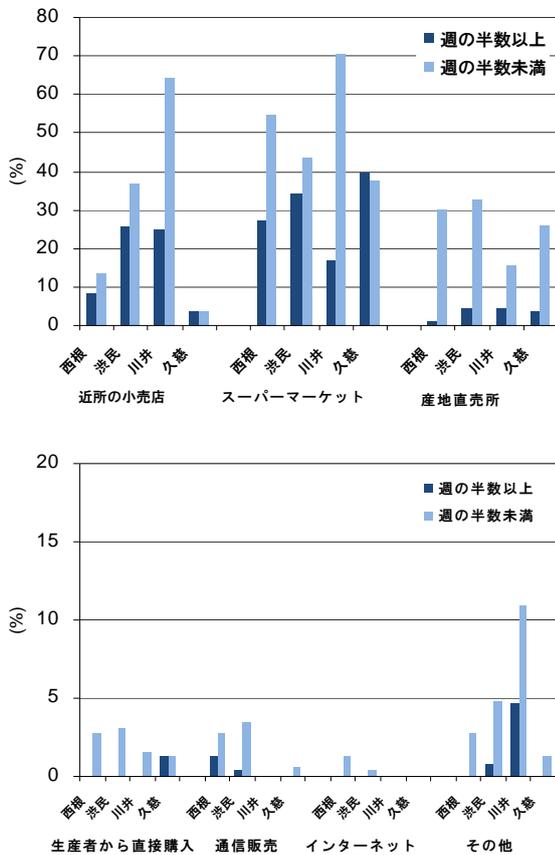


図1 食品の購入手段

した。多くの住民が食品を、「近所の小売店」や「スーパーマーケット」で購入していると回答している。購入の頻度は、「週の半数未満」が多い。最近では産地直売所(産直)での購入が増えている。産直における販売品は生産者が直接出荷しており、このため、新鮮で、一般的に価格も低い。共同購入(渋民地区)や移動販売車(川井地区)により購入している住民もみられる。今回調査した渋民地区は新興住宅地域であり、こうした集団での共同購入方法を導入しやすいと考えられる。その一方で、川井地区は山間地域であり、このため、移動手段が限られており、移動販売車を利用していることが考えられる。移動販売車による購入の頻度は、「週の半数未満」が多い。

##### 3.1.2 食に関する物品の使用状況

食に関する物品の使用状況を図2に示した。電気冷蔵庫、電子レンジ、ガスコンロおよび電気炊飯器は現在多くの家庭が使用している。IHヒーターは最近になって利用を始めた家庭が多い。食器乾燥機や食器洗浄機も最近に導入した家庭が多いが、その一方で、使用をやめた家庭も多くみられる。食器乾燥機や食器洗浄機は、電気冷蔵庫、電子レンジ、ガスコンロおよび電気炊飯器に比べてその必要性からではなく、利便性が

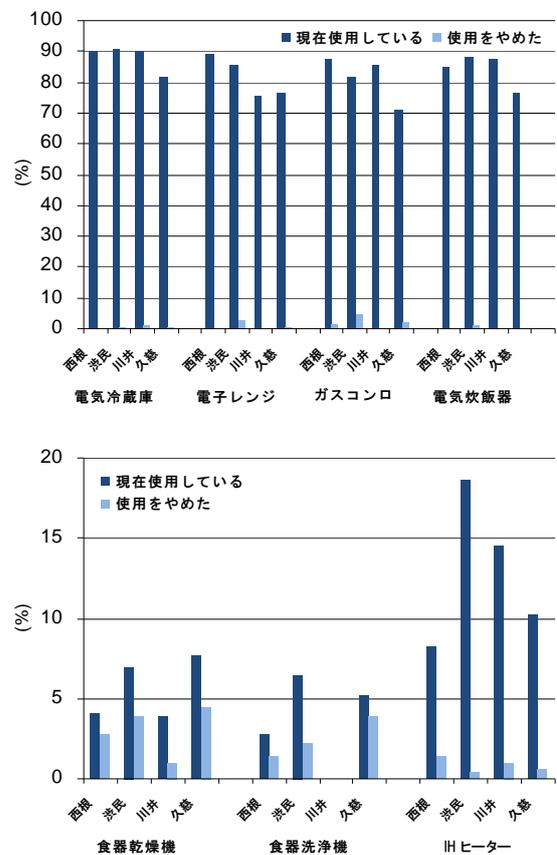


図2 食に関する物品の使用状況

ら購入していることがその理由として考えられる。いろりやかまどは、現在では多くの家庭で使用をやめているが、井戸は生活用水の確保のため、現在でも使用している家庭がみられる。

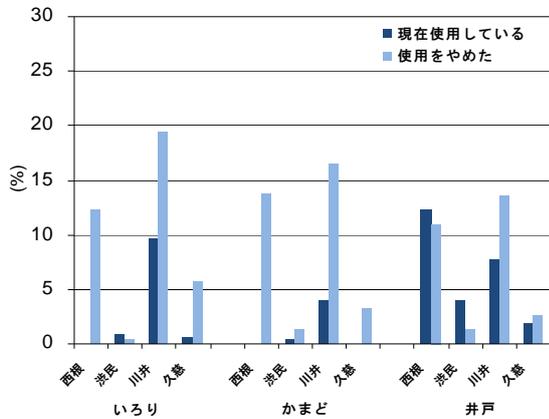


図2 食に関する物品の使用状況 (続)

### 3.1.3 加工食品の製造状況ならびに稲作の状況

加工食品の製造状況ならびに稲作の状況を図3に示した。みそは現在でも製造している家庭がみられるが、その一方で、製造コストがかかる、製造量に比べて使用量が少ないなどの理由で作るのをやめてしまった家庭もみられる。その一方で、餅と漬物は現在でも多くの家庭で作られている。しょうゆの製造は以前から少ない。また、コメは日本における主食でもあり、以前から多くの家庭で作られている。しかしながら、従事者の高齢化や兼業による多忙、作業機械の老朽化などを理由に、稲作農家の減少がみられている。

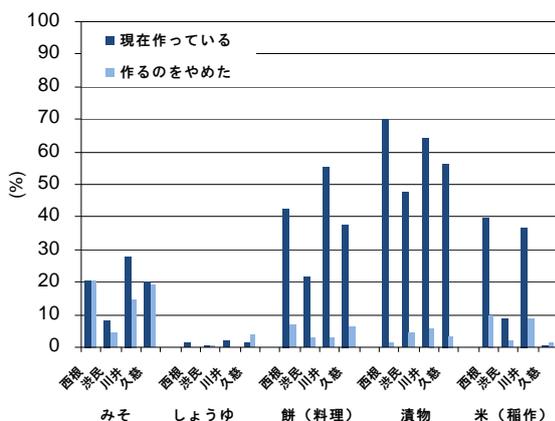


図3 加工食品の製造状況ならびに稲作の状況

## 3.2 食産業の状況に関する調査

### 3.2.1 農林水産業への従事者

今回の調査地区においては、農林水産業へ従事していると回答のあったのは、西根地区 50.7% (37/73)、渋民地区 9.1% (21/231)、川井地区 39.8% (41/103)、久慈地区 36.5% (57/156) であった。

農林水産業への従事者を図4に示した。多くの家庭で世帯主が主となって従事しているが、この場合、その配偶者や子が従となって従事していることが多い。世帯主の子が主となって従事している家庭もみられるが、この場合でも世帯主が従となって従事していることが多い。

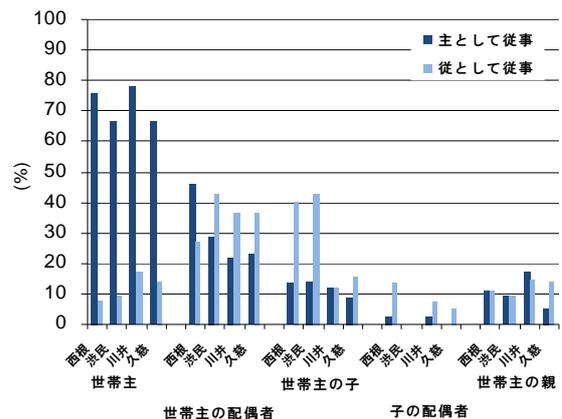


図4 農林水産業への従事者

### 3.2.2 農林水産物の出荷場所

農林水産物の出荷場所を図5に示した。多くの生産者が農協や漁協へ出荷しており、出荷物の100%を出荷している場合が多い。最近では産直へ出荷している生産者もみられるが、この場合、出荷の比率は低い。産直へは、副収入を得るような目的で出荷していることが考えられる。取引先に直接販売している生産者もみられるが、この場合、出荷の比率は高い。インター

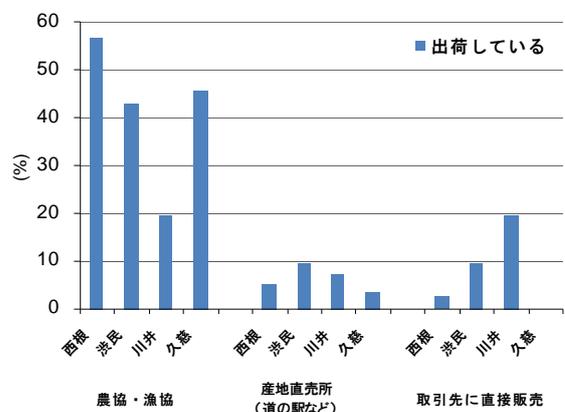


図5 農林水産物の出荷場所

ネットを使って通信販売をしている生産者はほとんどみられなかった。

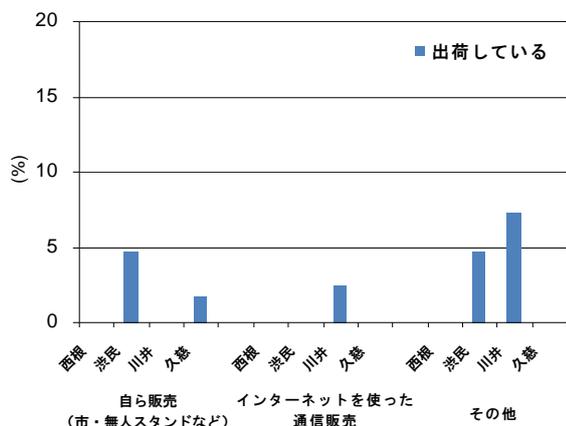


図5 農林水産物の出荷場所 (続)

### 3.2.3 農林水産業に関わる機器の使用状況

農林水産業に関わる機器の使用状況を図6に示した。多くの従事者が、トラック、田植え機、稲刈り機、トラクターを現在でも使用している。トラックは生産物等の運搬に便利であり、田植え機、稲刈り機、トラクターは、作業効率の良さや機械化の導入促進のため使

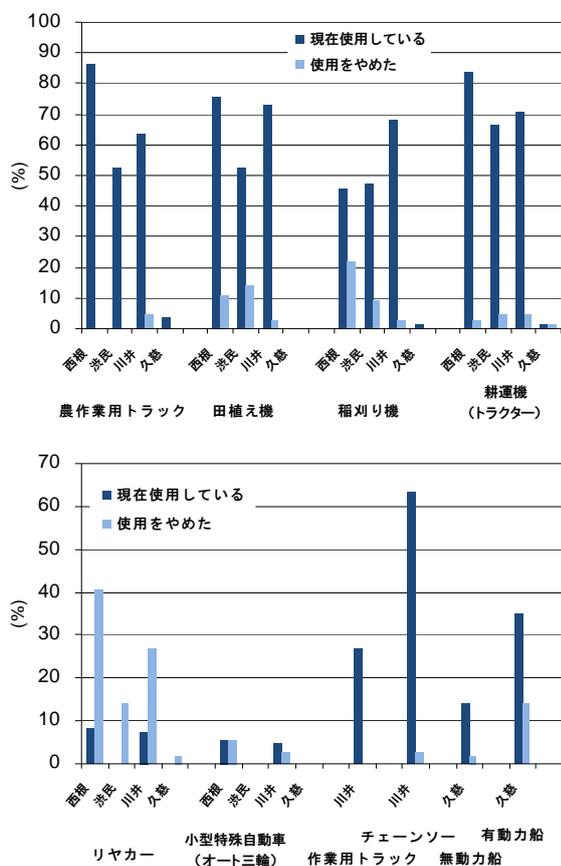


図6 農林水産業に関わる機器の使用状況

われ始めた。リヤカーやオート三輪は現在ではほとんどの従事者が使わなくなっている。これらも生産物等の運搬のために導入したが、トラックの導入をきっかけに使用をやめている。林業従事者においては、その半数以上で薪作りや間伐のためチェーンソーを現在でも使用しているが、作業効率の良さがその理由として考えられる。水産業従事者においては船の使用が多くみられるが、無動力船に比べて有動力船の使用のほうが多い。これも、作業効率の良さや労力の軽減のためと考えられる。

### 3.2.4 家畜の飼育状況

家畜の飼育状況を図7に示した。今回調査をした8種類の家畜はすべて、およそ50年前には飼育されていたが、現在でも飼育されているのは、肉牛、乳牛、鶏だけであった。この場合、野菜栽培への転換や畜産業以外への転業がみられる。その理由として、家畜の市場価格の低迷等を挙げている。また、農耕馬を飼育していた従事者においては、農作業の機械化導入を機に飼育をやめた事例もみられる。

### 3.2.5 インターネットの農林水産業への利用状況

インターネットの農林水産業への利用状況を図8に

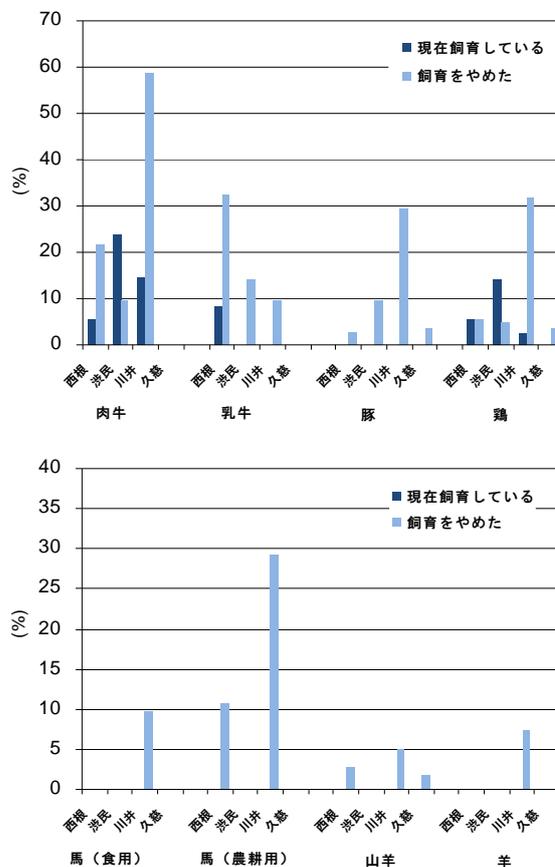


図7 家畜の飼育状況

示した。インターネットを農林水産業へ利用している従事者はまだ多くない。そのような状況の中で、利用している従事者の多くが仕事の情報を得ていると回答している。しかし、仕事に関係する物品の購入に利用している従事者はほとんどおらず、さらに、生産物を販売している従事者はほとんどいなかった。

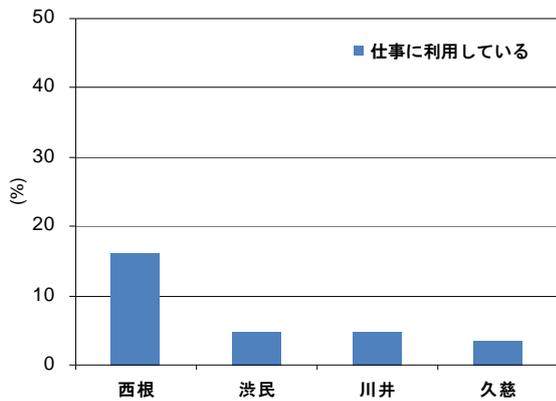


図8 インターネットの農林水産業への利用状況

### 3.2.6 農林水産業の継続について

最後に農林水産業の継続についての考えを図9に示した。約15%の従事者が「代が変わっても続けていきたい」と回答している。その一方で、約29%の従事者は、「後継者次第である」と回答しており、その数は約2倍にのぼる。また、約24%の従事者は、「わからない」と回答している。農林水産業従事者の減少がみられているが、今回の調査からも、将来的に従事者の減少を予測させるような結果となっている。

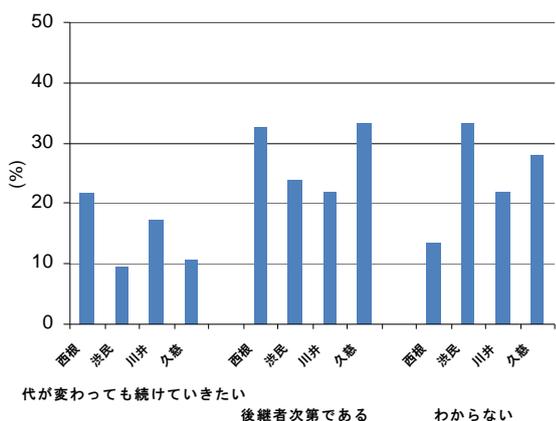


図9 農林水産業の継続について

## 4. まとめ

今回の調査研究では、岩手県4地点における食に関わる生活、文化ならびに産業の変容を約50年前と比較した。そして、多くの調査項目において、その当時とは異なる状況がみられた。この間、わが国の産業構造においては、農林水産業を柱とする第1次産業従事者の減少とサービス業を柱とする第3次産業従事者の増加がみられ、少子高齢化が進行し、最近においては総人口の減少が始まっている。こうした現象は今回調査を実施した岩手県においても例外ではなく、各調査地域でも然りである。こうした変化も伴って今回のような結果がみられたことが考えられる。農林水産業従事人口や、食に関する生活、文化、産業の維持のため、幅広い観点から議論していくことが重要であると考えられる。

## 謝辞

本研究を実施するにあたり、調査に協力をいただきました、八幡平市田頭中村地区、盛岡市玉山区下田舟田地区、宮古市小国地区および久慈市宇部町小袖地区の皆様へ感謝いたします。

本調査研究は、平成20年度から22年度にかけて取り組みました「岩手県立大学学部プロジェクト研究」の一部として実施しました。

## 参考文献

- 1) Masashi Kawasaki, Toshiyuki Chiba, Reiko Osato, Takashi Sasaki, Eiko Kusaba and Yoshinori Honma, Life and culture transformations from modern environmental change in northern Tohoku region, Japan. Part 3. Changes in life, culture and industry for food and nutrition in rural area in Iwate prefecture, *Proceedings of the 4th Asian Rural Sociology Association International Conference*, **4**, (in press).
- 2) 岩手県立盛岡短期大学生活科学研究部, 生活調査報告第1号 (岩手郡西根村中村部落) (1959).
- 3) 岩手県立盛岡短期大学生活科学研究部, 生活調査報告第2号 (岩手郡玉山村渋民船田部落) (1961).
- 4) 岩手県立盛岡短期大学生活科学研究部, 生活調査報告第3号 (下閉伊郡川井村小国地区) (1961).
- 5) 岩手県立盛岡短期大学生活科学研究部, 生活調査報告第4号 (久慈市小袖部落) (1963).

